



答弁中の平松町長

コロナ

コロナから命を守る須恵町に

臨機応変に対応

問

新型コロナウイルス感染者が増え続けています。町民の命とくらしを守るため、さらなる感染防止対策が必要です。糟屋地区町長会で抗原定量検査機器を糟屋地区に導入するよう県に要望を。町民のPCR検査、抗体検査の費用は町負担で。町税の猶予、国保税、後期医療保険料、介護保険料の減免申請の状況と周知徹底対策、

さらなるコロナ支援策をすべきでは。今後どんな支援策をされるのか。2次のコロナ交付金有家賃支援を含む事業継続、雇用維持等分で1億1300万あり、家賃支援に、また大学生等生活応援給付金事業に一律10万円の給付をすべきではありませんか。

答 今泉健康増進課長

抗原定量検査は、粕屋保健所で採取した検体を検査技師がいる筑紫保健所へ持ち込むこととなりますが、糟屋地区への導入要望は、感染状況を見ながら考えていきます。また、一般町民に対するPCR検査の費用の助成は、各自の予防対策により、医療機関が逼迫した状況ではありませんので今の所考えていません。

答 諸石総務課長

各税金等の猶予、減免等の申請状況ですが、納税の猶予37件、国保税減免33件、後期高齢者医療保険料の減免3件、介護保険料の減免3件、金額にして合計約1800万円です。制度の周知は、町広報誌、ホームページで掲載しているほか、窓口や電話での相談時

答 平松町長

コロナ対策は、長期戦になると思います。須恵町の財政規模の中でこの町を運営していくわけですので、コロナとうまく付き合いながら、臨機応変に対応してまいります。



児玉 求 議員 (写真はアクリル板を通してため不鮮明になっています)

コロナ

新たな生活、現状と今後の対応は

新しい形を模索

問

新型コロナウイルス感染拡大で、マスクの徹底、人との距離、会食のあり方、企業、地域などの自粛によって新たな生活様式が一般的となりました。今後、withコロナで長く向き合い、付き合っていく事となれば、長いスパンで対応が必要となり、町独自の支援策の継続、延長が求められます。

また、今年度は町、校区、行政区の行事が中止となり地域のコミュニケーションが欠落しています。絆、支え合いが薄れ担い手不足となれば、活動が困難になる可能性があります。

そこで、町独自の支援の現状と今後について、地域の活動を継続する具体案についてお伺いします。

答 諸石総務課長

町の独自の支援策は、ほとんどの事業が当初見込みどおり実施されています。支援策の継続、延長は、現段階での予定はございません。また、終了していない事業もありますので、今後の状況を踏まえながら引き続き須恵町に必要な支援の検討をしたいと思えます。

答 平山まちづくり課長

コロナ禍の今こそ、地域の皆様と行政がともに考え、創意工夫して、ウイズコロナ、アフターコロナに向けた新しい地域づくりを進めていかなければならないと考えています。

答 平松町長

アフターコロナになった時も、町民の皆さんが、ニコッと笑えるようなまちづくりのための施策を、いろいろ出していこうと思います。



川口 満浩 議員 (写真はアクリル板を通してため不鮮明になっています)

来年4月から須恵町公式LINEを公開し、エリアごとに必要とされる、行政および校区コミュニティからの情報